

オーガスト
オフィシャルハンドブック
2013年夏号



大図書館の羊飼

a good librarian like a good shepherd

 AUGUST

P R E F A C E — ま え が き

こんにちは、オーガストです。

初めての方、はじめまして。

何度目かの皆様、いつもご愛顧頂きありがとうございます。

既にご存知の方も多いと思いますが、オーガスト初のコンサートイベント『トラベリング・オーガスト』を8月17日に東京、9月1日に大阪で開催することに致しました。なにぶん初めてのことなので、当初はどれくらいのお客様に来ていただけるのか想像できず、300人程度のオールスタンディングの会場（当然それに見合った規模の演奏・出演者）を検討したりもしていました。大きい会場は借りるためのお金もかかるし、ガラガラだったら大赤字です。音響のいい「文京シビックホール」を借りることができ、チケットの発売日を恐る恐る迎えたのを覚えています。……しかし、蓋を開けてみるとチケットには予想を遙かに上回る数のお申し込みをいただきました。一般販売分もあつと言う間に完売。追加公演として慌てて会場を探し、なんとか借りることができた大阪公演も、ほぼ同様の状況でした。お申し込み頂いた皆様、誠にありがとうございました。そして抽選に外れてしまい、一般販売分の購入も間に合わなかった皆様、誠に申し訳ありませんでした。（ひとえに、私たちが「びびってしまった」ことが原因です）

こんなに多くのお客様にご興味をお持ち頂けるとは思っておらず、本当にありがたく思っています。コンサートがより良いものになるよう精一杯準備しておりますので、ご期待頂ければ幸いです。

それでは、多少のお時間を拝借致しますが、オフィシャルハンドブックをお楽しみ下さい。

2013年夏 オーガスト / ARIA 拝

CONTENTS

3 …… オーガスト最新作情報

6 …… 『大図書館の羊飼』Short Story
不機嫌なクロスワード

10 …… スタッフ対談

11 …… あとがき



大図書館の羊飼!

a good librarian like a good shepherd

放課後しっぽデイズ

完成しました!



『大図書館の羊飼』 スピンアウトストーリー開幕!

シナリオ：榊原拓 ほか / 原画：夏野イオ
動作環境：WindowsXP/Vista/7/8
対象年齢：15歳以上推奨 / 価格：1500円
CV：土岐のぞみ役 楠原ゆい 藤宮朔夜役 榎井桜花

『大図書館の羊飼』のスピンアウト作品、『大図書館の羊飼』 放課後しっぽデイズが無事完成し、夏コミ会場での発売が決定しました。野良猫の写真撮影だけ目的とする実ニッチな活動に勤むネコ写真部。部員はのぞみと主人公の2名だけ。そこへ田舎から家出同然にやってきた朔夜が加わり、波瀾の日々が始まる!!…のかな? 図書部の面々も顔を出しつつ繰り広げられる、お手軽に楽しめるサイズの一部。お楽しみ頂ければ幸いです。





ファンデイスクも開発順調！
もう少し待っててね！

図書館の羊飼

a good librarian like a good shepherd
-Dreaming Sheep-

原画・べっかんこう / シナリオ・榊原拓 ほか



▼学費を稼ぐ必要に駆られ、アプリオで汗を流す小太刀。明らかにサイズの合っていない制服は嬉野の陰謀でしょう。おそらく。

▲京太郎とのデートで大はしゃぎの真帆。この後波に足をすくわれて転ぶフラグが見えますが、華麗に回避できるでしょうか。



▲生徒会室で背中を診てもらった巫女服のつぐみ。一体どうしてこのようなシチュエーションになったのでしょうか。多岐川に見つかったらお目玉どころではなさそうです。

部室でお気に入りのポーズでリラックス中の千莉です。視線を下に下げれば彼女の思うつぼ。強靱な精神力が試されます。



from STAFF

2013年1月に発売し大好評を博した「大図書館の羊飼い」。そのファンディスク「大図書館の羊飼い -Dreaming Sheep-」の開発も、順調に進行しています。秋ごろから徐々に新規情報を公開していく予定ですので、どうぞ楽しみにお待ち下さいませ。アニメ化やその他の展開も同時に進行中。こちらも、早く詳細をご案内できればと思います。

大図書館の羊飼いファンディスク、鋭意開発中。ご期待ください!!

<http://august-soft.com/>

画像・文字情報はすべて開発中のもので、変更の可能性があります。

不機嫌なクロスワード

榊原 拓

猛暑。

きつい日差し。

晴れ渡った空の遙か遠くに、高く高く盛り上がった雲。

夏真っ盛りってやつだ。

汐美学園は夏期休暇中。

それでも俺たち図書部は活動しており、早めに依頼を終えた俺と千莉を除いては、まだそれぞれが担当先へと出払っていた。

俺と千莉は部室で待機。

ちなみに、俺達は付き合い始めて少し経ったところ。

こう見えて、彼氏彼女である。

けどどこは部室だし、俺も千莉もマイペースだしで、やることは以前とあまり変わっていない。

俺は黙々と読書に精を出し、千莉はクロスワードパズルを解いている。

それはいい。

問題は——部室はもとより図書館全館の冷房が故障していることだ。

「あつっ」

「……」

「なあ千莉、暑くないか」

「……寛先輩は暑いんですか」

「そりゃなあ」

制服の襟元をつかみ、ぱたぱたと扇ぐ。

「……やせ我慢してないか？」

「別にしてません」

すげない千莉。

最高気温が三十五度を超える日を「猛暑日」というが、今日はきつとそれだ。

じっとしているだけで汗が噴き出してくる。気をつけないと、本に手の汗が染みそうだ。

まだ活動してる仲間には申し訳ないが、正直、アプリオにでも涼みに行きたい。

「白崎先輩は、直接部室を訪ねてくる人とかメールの依頼にもなるべく早く早く対応しよう、って言ってましたよね」

「ああ」

「それに、まだ依頼をこなすためにみんな頑張ってるんですよね」

「そうだな。俺たちだけ涼んでるのも、ちょっとな」

「……」

黙って頷き、クロスワードパズルの本に視線を落とす千莉。

アプリオに行きたいって俺の気持ち、顔に出たか。

……ま、心頭滅却すれば火もまた涼し。俺は本さえ読めればいい。



——と思ったが暑すぎて本に集中できない。心頭滅却できないので、これっぽっちも涼しくなどなかった。

「……」

それにしても、昼頃から千莉は機嫌が悪いような気がする。

これは多分、気のせいじゃない。俺、何か千莉の機嫌を損ねるようなことをしたのだろうか。

しばらく頭を捻って考えてみるが、思い当たらない。

しかも……

そのせいか、千莉は昼からずっと「暑くないです」を繰り返している。

確かに午前中は少し涼しかった。

だが、昼を過ぎて気温はうなぎ登り。

今では、黒いベストを着込んだ千莉の熱中症が心配なほどだ。

「千莉も暑いって思ってるよな？」

「いえ、別に」

「本当に？」

「ええ」

「……そのベスト脱いだら？」

「なんでですか？ 別に暑くないですよ」

さすがにそれは無理があるだろう。

でも、ここは俺が大人の対応をすることにしよう。

「いや、見てる俺の方が暑いんだ。俺のため

だと思って、頼む」

「……そういうことなら、仕方ないですね」クロスワードの雑誌をテーブルに置き、ベストを脱ぐ千莉。

「これでいいですか？」

「ああ。少しは涼しくなつたら？」

「そうですね。別に暑くなかったですけど」そう言ってまた雑誌に向かってペンを握る。

今日の千莉は強情だ。

しばらく部室で沈黙の時間を過ごす。

しかし暑さは一向に和らぐ気配を見せなかった。

じっとしているだけで汗がじんわりと浮いてくる。

「寛センパイ」

「何？」

「無機塩類を含む容器入り飲料水。一般には天然の鉱泉水や湧水を原水とするもの。九文字です。二文字目が「ね」で五文字目が「う」

クロスワードパズルか。

それにしても簡単な問題だ。

「……まあ『ミネラルウォーター』じゃないか」

「ああ、なるほど」

千莉はちょっと大げさに感心し、ふむふむと頷いている。

……ん？

あー、もしかして千莉は。

「ちょっと出てくるわ」

そう言い残して、俺は統合購買部に向かった。

——千莉はたまにこうして機嫌が悪くなることがあるけれど、これまでの経験から、大体悪いのは俺の方だった。

それを分かりやすく伝えてこない千莉もどうかと思うが。

……とりあえず、千莉が意地を張って熱中症にでもなつたら大変だ。

一応千莉の分も含めて、ミネラルウォーターを二本買って帰る。

「ただいま」

「おかえりなさい、寛先輩。早かったですね」

「ミネラルウォーター買ってきた」

「ふーん……そうですか」

「二本買ったんだけど」

「そんなに飲んだらお腹壊しますよ」

「ああ、そうだな。千莉も一本飲んだらどうだ」

「そうですね。それもいいかもしれませんが」

キュッとペットボトルの蓋をひねり、こくこくとミネラルウォーターを飲む。

ほら。

かなり喉が渴いてたみたいじゃないか。

これは……強情というよりは、相当機嫌が悪いと思えない。

うーん……。

夕方になった。

しかし、まだ誰も帰ってこない。

ブラインドを下げているのに暑くなってる気

がするのは、強烈な西日が壁を熱し、その壁が輻射熱を放ってくるせいだ。

「寛センパイ」

「何？」

「クリームに牛乳・砂糖・香料・ゼラチンなどを加えて凍らせた氷菓子。七文字で、六文字目が長音記号」

またクロスワードパズルか。

そして、また簡単極まりない問題だ。

「……そりゃ『アイスクリーム』だろ」

「あ、言われてみればそうですね」

答えを書き込む千莉。

「本当にそんな問題が都合良くあるのか」

「ありますよ」

事もなげに言う。

「ちよっと出てくるわ」

そう言い残して、俺は再び統合購買部に向かった。

部活帰りの運動部員達に飛ぶように売られているアイスを、俺もなんとか二つゲット。

「ただいま」

「おかえりなさい、寛先輩。早かったですね」

「アイス買ってきた」

「ふーん……そうですか」

「ほら、一つは千莉の分だ。食べよ」

「え、でも」

「いいから。さっさとしないともう溶けかけだぞ」

「あ、は、はい。ありがとう……ごさいます」

俺の有無をいわずぬい口調に流され、アイスを

口にする千莉。

はむはむと。慌て気味に。

そんな千莉を見ると、一瞬目が合った。

何か言いたげなようだが……。

西日のピークも過ぎ、東の空から藍色に染まってきた。

さすがに暑さも峠を越えたか。

何人かから連絡があり、あと一時間かそこら

で部員も全員任務を終えそうだ。

……クロスワードを解いている千莉の横顔を眺める。

結局、千莉の機嫌を損ねた原因は分からず終

いか。

彼氏として情けない。

「寛センパイ」

「何？」

「火薬などを紙で包み、点火し、燃焼・破裂時の音や光、形状などを鑑賞するもの。三文字です。二文字目が『な』」

またクロスワードか。

この暑い中、半日それを続けていたのはすごいけどさ。

「……花火？」

「ああ、そうですね」

「簡単だろ今のも」

「どうでしょうか」

雑誌に答を書き込んでいる千莉。

花火、か。

……あ。



そういえば……海岸沿いで花火大会があったよな。

あれは確か、今晚だ。

「……っ！」

すっかり忘れていた。

いつだったか、千莉と「花火を二人で見に行きましょうね」という約束をしていたのだ。

それなのに、昼前に俺は――

「なあ、今日は活動が終わってみんなが揃ったら、汐美祭で何やるか話し合おう」などと提案していたのだ。

俺はアホか。

千莉の機嫌が悪かったのは、間違いない、あの発言のせいだ。

――千莉を見ると、開いたままの雑誌を持ち上げ、顔を隠している。

ブーンブーン

携帯が鳴る。

桜庭からのメールだ。

「昼間の算の発言は、みんな聞かなかったことにする決定が下された」

同時に、鈴木からも。

「寛さんと違って私は本だけじゃなく空気も読みますので、今日は直帰します」

高峰まで。

「全力を尽くしたら骨は拾ってやる」

最後に、白崎からも。

「私は部室に戻るけど、寛くと千莉ちゃん

が残ってたら怒るからね」

……ありがたい。

心の中で粹な友人一同に頭を下げる。

いや。

俺が今頭を下げなくてはいけないのは……。

「千莉、忘れてて悪かった」

「何がですか」

「フーンとした返事。」

「……今晚の花火、見に行くか？」

千莉が顔を隠している雑誌の表紙をじつと見ながら、返事を待つ。

「……そうですね。それもいいかもしれませんが」

千莉は、朱に染まった顔を雑誌の陰からちらりと覗かせて、返事をした。

かすかに見えた、その嬉しそうな顔というか……ほっとしたような顔。

そんな顔をさせてしまったことを申し訳ないと思う。

……そして、一日暑い思いをしてまで直接文句を言ってこない、そんなところもとても可愛いと思った。

「じゃ、行くか」

「……はい」

俺達は部室を後にする。

一番星が輝きはじめた空の下、海岸へと向かう道で、そっと千莉から手を繋いできた。

END



べっかんこう (以下「べ」) : さあ、今回も対談の時間がやってきました!

神原拓 (以下「神」) : 暑さに負けず、テンション上げて行きますか!

べ: さてさて、まずはトラベリングオーガストでしょう。

神: この冊子が配布される日がちょうど開催一週間前です。

べ: どんなコンサートになるか楽しみです。

神: 初めてのことなので、何もかも手探りで……大変でもあり楽しくもあり。

べ: セットリストの歌とBGMの割合とかも難しいですね。

神: ですね。会場としてシビックホールを借りるときも、こんなに大きな箱が埋まるのかなとびくびくしてました。

べ: お陰さまでたくさんの方に来ていただけるようで、ありがたいです。遠くから来ていただけるお客様も多そうですし。

神: でも、あまりにも早くチケットが完売してしまったのは、買えなかった方に申し訳なかったなと。

べ: 追加公演も、近い日程だと会場を押さえるのが難しかったですよね。

神: 平日ならあったんですが……。

べ: 平日は確かに厳しいかも。あとは……今回はずっと座って聴く感じにしてみました。光り物もご遠慮いただく流れです。

神: 業界的にはオールスタンディングも多いですし、そういったガンガン盛り上がる方が好きな方もたくさんいるとは思んですけどね。

べ: みんなで話し合って、今回はじっくり曲を堪能していただければということになりました。

神: そうです。……さて、次にしっぽデイズについて。

べ: しっぽは夏野イオさんがメインなので、僕はうしろから応援する係でした。

神: そうでしたね。シナリオチームはいつもの態勢でした。DS (編注: 「大図書館の羊飼いのDreaming Sheep」) の合間を見つけて、みたいいな。

べ: 夏野さんにはキャラデザからやってもらったんですが、のぞみなんかは特に今までのうちにはいなかった感じになって良かったんじゃないかと。

神: ヘッドホンとか。

べ: ええ。新しい風になってもらえればと思っています。

神: シナリオチームも、こういうスピンオフ的なソフトを作るのって初めてなので、どれくらいの規模で作ろうとか、いろいろ考えました。

べ: ついボリュームをマシマシしたくなるんですけどねー。でもいろいろ考慮して今回のサイズになりました。

神: 今回はコンパクトにまとめて、気軽な感じでプレイしていただければと。

べ: お値段もまずはお手頃価格です。本編未プレイの方にも楽しんで頂けると思うので、ぜひー。

神: 図書部もちらっと出てくるんですよ。

べ: ギザさまも。

神: オフィシャルサイト上に窓口を作るとしますので、ご意見ご感想などいただければと思います。

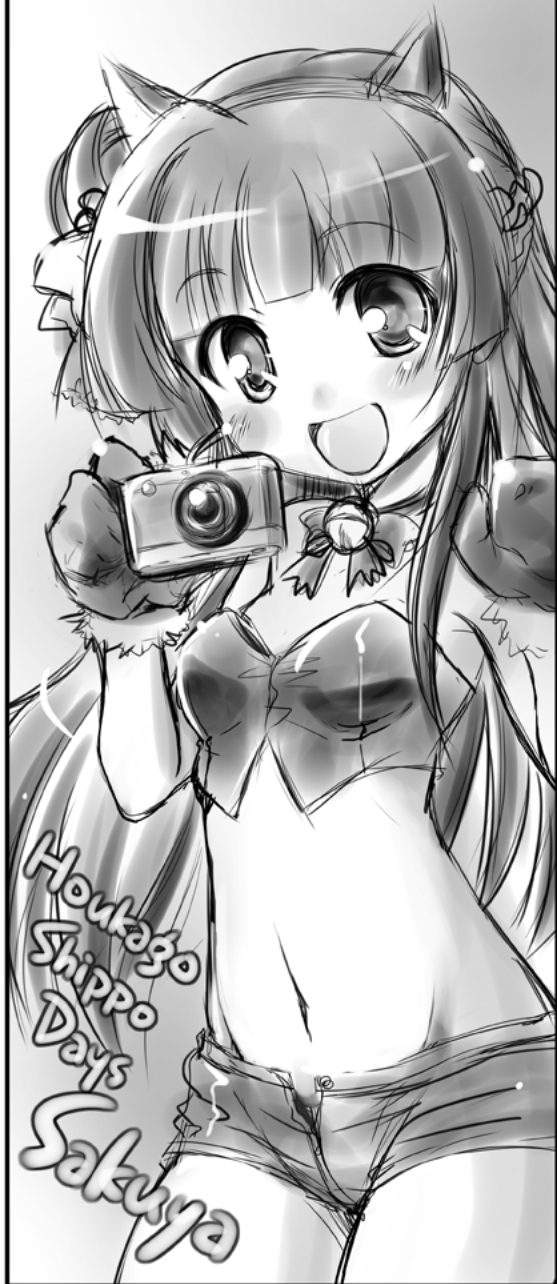
べ: 今回は後輩のデビュー戦なので、どきどきです。頑張ってるので応援してあげてください。

神: よろしくをお願いします。

べ: さて、僕はDSの仕事に戻りますよ。

神: これからも機会があれば何か新しい試みができるといいですね。

スロウ対談
第35回 べっかんこう & 神原拓



POSTSCRIPT - あとがき

オフィシャルハンドブックをお読み頂き、ありがとうございました。
お楽しみ頂けましたでしょうか。

さて本冊子が配布される夏コミにて、『大図書館の羊飼いわ放課後しっぽデイズ』を発売開始致しました。
こういった、ソフト本編の世界観をシェアしつつ別の登場人物がメインのスピニアウト作品を作るのは初めてですし、原画家としての「夏野イオ」のデビュー作ともなったわけですが、いかがだったでしょうか。
プレイを終えられましたら、是非ご意見ご感想などをお寄せいただければ幸いです。

そして、同じく夏コミにて第一報のチラシを配布しておりましたが、『大図書館の羊飼いわDreaming Sheep』の制作を現在鋭意進めております。
CGなど公開できる情報ができ次第、雑誌やOHPなどで公開して参りますので、こちらもご注目下さい。
今のところ、次の冬に発売できればと考えています。

それでは、今回はこの辺で。
今後ともオーガスト/ARIAをよろしく願い致します。

2013年夏 オーガスト/ARIAスタッフ一同

オーガストオフィシャルハンドブック
2013年夏号

※禁無断転載・無断複製

最新情報満載!
オフィシャルホームページにぜひお越し下さい!

<http://august-soft.com/>
<http://aria-soft.com/>

大図書館の羊飼いわ
a good librarian like a good shepherd





大図書館の羊飼！
a good librarian is like a good shepherd
放課後しっぽデイス

オーガストオフィシャルハンドブック
2013年夏号

